

「民生児童委員とのカフェ・ド・ギカイ」の事前ヒアリング結果表

※ 太字表記は出席者。細字表記は欠席者（コーディネーターが報告）。

テーマ1：民生児童委員の現状

住民とのつながりが昔程なく、希薄になっている。高齢者の自殺や自然死で発見が遅れる事案も増えている。
そのような中で、やはり自治会との情報交換は必要。

一人暮らし高齢者世帯が増えており、介護を受けず生活できるよう、サロン等を開き、フレイル予防に来るよう、呼びかけ等をしている。
ちょっ困応援隊の活動を展開し始めた。

少子高齢化が進んでいる。（担当区域において、援護を必要とする高齢化世帯、一人暮らし世帯が増加傾向にある。一方で、児童の数は減少してきた。登校班も減り、子ども等の明るい言動が見聞きされない。校門での挨拶運動は楽しい。）

自ら助けて欲しいと申し出る住民が少ない。また、個人情報の関係で、民生児童委員側からも踏み込めていない。今後、情報の共有を図っていくことが課題。

- ・親の介護をしながらの活動だったので、十分な支援ができなかった。
- ・見守り活動もなかなか難しかったが、サロンを主催していたので、サロンのチラシを配りながら、皆さんと接するようになってきた。
- ・小中学校の運営委員をやっていたので、授業参観や学校行事を通して児童・生徒への理解は深まった。

民生委員は全国で約24万人必要だが、現在の数は約22万人で、欠員が増えている。本町でも選任されていない行政区がある。
退職後も働いている人が多いので、民生委員になることが難しい。人手不足である。

テーマ1：民生児童委員の現状

民生委員自体が、高齢化している。

東町北区では、若い住人が増えつつあるので、民生委員も若返りできたらと思う。今後は、若い人をどう取り込むかが課題だ。

車のスピードを出す人が増えており、児童・生徒が登下校で危ない状況だ。東町北区は、道が狭いので、幅を広げる整備をしてほしい。

R5.3.1より太田地区(約124世帯)より選ばれ、現在、本年度(R7.12.11で1期《3年目》)を迎えている。

民児協議会では、世話人役として活動させていただいている。ただし、民生委員も高齢化し、子どもが減っている現状。

民児協議会約50～52名、また、地域の高齢者(一人暮らしの方11名)の定期的な自宅訪問活動をしているが、皆さん元気でいらっしゃる。

サロンには20～30人が参加しており、輪投げなどのゲームを楽しんでいる。大変ではあるが、充実した取り組みをしている。

特に最近では、子どもに関する個人情報の保護が壁となり、主任児童委員のあり方を考えさせられる時代になってきている現状に思える。

テーマ1：民生児童委員の現状

民生委員のなり手不足が、地域福祉の低下につながっている。

《民生委員のなり手不足の要因》

- ・ 活動の負担が大きい
- ・ 高齢化・仕事や介護との両立が困難
- ・ 活動内容の認知度不足

《今後の対策》

- ・ 活動内容を見直し、負担の軽減を図る
- ・ 多様な人材の確保
- ・ 活動内容の広報に力を入れ、理解促進を図る
- ・ 選任要件の緩和を図る

- ・ 民生委員の短期の欠員は今までもあったが、1期3年を超え欠員の補充ができない地区があり問題。
- ・ 地域の絆が弱体化していることに加えて、個人情報保護重視の指向により問題を抱えている地域住民の存在が発見しづらく、また一歩進んだ介入ができない。発見しても、担当部署に概要を繋ぐことぐらいで、民生児童委員の業務がどこまでかという声もある。

- ・ 委員間の交流がない。
- ・ 情報交換ができていない。

テーマ1：民生児童委員の現状

個人的に民生児童委員の仕事は、高齢者と児童母子と捉えている。児童母子は、国家存亡の問題とし、国・県・町でも細部に渡るケアを実施している。一方、高齢者は、世の中から取り残されていると感じる。自分としては、民生委員の仕事として高齢者に目を向けている。

2024年のデータで、孤独死は76,000人。その8割が65歳以上で、全体の7割が男性とのこと。発見されるまでの日数平均が18日となっている。

就任にあたり自ら挙手した方が、ほぼ存在しない。

新任、留任、共に高齢者が増えている。

退任を望む方が多い。

役職を避ける。